

保護者会の活動紹介 第27回

青山学院大学系属浦和ルーテル学院小・中・高等学校

「日本一小さな私立学校」1953年に学校法人聖望学園として浦和駒場の地に創設された際は児童の数は男女2名ずつの4人で、そのように呼ばれていました。1963年に中学校、1970年に高等学校が置かれ、現在では900名を超える児童・生徒が「神と人とを愛する人間、神と人にと愛される人間」の建学の精神のもと、浦和美園の地で研鑽を積んでいます。

本校の特徴は「ギフト教育」です。普段の学習活動はもちろん、多彩な行事や体験を通して才能を伸ばしています。感謝と思いやりを持って世界中の人のために才能を生かす国際貢献の土台作り「グローバル教育」にも力を入れています。これらの教育活動によるきめ細やかな指導により、大学進学によく健闘し、多数の合格を実現しています。また、2019年度から青山学院大学の系属校となりました。

学院の創立より一緒に歩んできたPTA。本部役員、クラス委員、新聞委員、ベルマーク委員、図書委員、交通安全委員、で構成されており小学校から高校生の保護者が一緒に活動しています。2023年度のスクールフェア（文化祭）では、小学校・中学校・高等学校のPTAクラス委員の皆さんの支えにより、制服リサイクル、スイーツ販売、こどもえんいち（小学生対象）を行うことができ活気ある活動ができました。



埼玉私学保連ニュース発行担当：広報部会
部会長 佐藤美紀
部会員 大野裕美、橋本直哉、中野幸弘、工藤直成



<https://saitamashigaku.com/publics/index/19/>
リンクより埼玉私学保連ニュースのバックナンバーがご覧いただけます。

埼玉私学保連ニュース

2024年2月発行 Vol. 32

Saishigakuuhoren NEWS

発行/埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会（略称：埼玉私学保連）
所在地/さいたま市浦和区高砂4-13-20 埼玉私学会館内 TEL.048-866-4478 FAX.048-866-4479

埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会とは

埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会（以下、埼玉私学保連）は、私学助成運動や青少年健全育成などの私立学校振興のため、埼玉県内の私立小学校、中学校、高等学校の保護者会の現役役員を中心とする組織として平成19年2月18日に誕生しました。

目的

学校教育における私立学校の重要性に鑑み、広く児童生徒の保護者の立場から、埼玉県私立中学高等学校協会等の私立学校関係団体と緊密かつ強力な連携を保ち、これらの団体とともに私立学校の振興及び青少年の健全育成に努め、私立学校の充実及び発展に寄与することを目的としています。

組織

埼玉私学保連加盟校及び加盟保護者会団体に在籍する生徒の保護者、並びに加盟校の理事長・校長推薦のあった保護者により構成されています。

現在は加盟校44校、加盟保護者団体48団体から21名が埼玉私学保連役員として活動しています。

主な事業

- ・埼玉県私学振興大会の開催（私学助成制度の堅持と助成額の増額を目的とした事業）
- ・研修会の開催（加盟校保護者を対象とした教育に関する研修会）
- ・加盟校等代表者連絡協議会の開催（加盟校による情報交換・意見交換）
- ・定期総会
- ・その他（日私学保連全国総会・研修会への参加、関東地区私学保護者会理事会への参加、県の予算編成に対する要望、広報誌の発行）

活動拠点

埼玉私学保連役員は理事会などの活動を、さいたま市浦和区にある埼玉県私立中学高等学校協会の事務局で行っています。



埼玉県私立中学高等学校協会外観



出浦さん 宮下さん 小川さん 吉野さん
事務局の皆さんです。私たちの活動を助けていただいています。

埼玉私学保連の活動報告

令和5年度 私学振興全国大会

広報部 中野 幸弘

令和5年11月1日、東京・文京シビックホールにて令和5年度私学振興全国大会が開催されました。大会には青山周平文部科学副大臣をはじめ、私学振興に資する諸施策の推進にご尽力いただいている国会議員の皆様にご多数ご来臨を賜り、全国から参集の日本私立中学高等学校連合会（中高連）、日本私立小学校中学校高等学校保護者連合会（私学保連）など私立学校関係者を併せて総勢1,600名を超える盛大な大会となりました。中高連近藤副会長及び私学保連代表者からは、私学における教育環境充実のための助成に関する要請を行い、これを受けて議員の皆様から私立学校振興助成法を基にした支援について力強いお言葉を頂戴し、決議文を手交して無事に閉会いたしました。



令和5年度 日私学保連青少年育成研修会

副会長 小高 多希子

令和5年11月17日、日本私立小学校中学校高等学校保護者連合会主催の令和5年度青少年育成研修会が岩手県盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにて開催され、埼玉私学保連からは嶋根監事と小高の2名で出席いたしました。

日私学保連の門田会長、開催県である岩手県私学保連の白澤会長、来賓として岩手県私学協会の小田島会長、また各都道府県の私学保連役員が大勢参加され、盛大に開催されました。

研修会の第1部では、「未来を創る力とは～専大北上高校の改革について～」と題して専修大学北上高等学校の阿部校長先生が「自分らしい進路の実現」に向け取り組んでいる学びの改革やその改革をどのように進めているのかというテーマで講演されました。第2部では、「祖父 清六から聞いた 宮澤賢治」と題して（株）林風舎代表取締役 宮澤和樹氏より、ご親族だから知る宮澤賢治について講演がありました。

研修会終了後には、懇親会が開宴されました。盛岡白百合学園中学高等学校の生徒による「さんさ踊り」のご披露があり、各県の役員の方々と交流をはかることができ、貴重な経験と勉強をさせていただきました。



埼玉県私学振興大会反省会

広報部 工藤 直成

令和5年12月9日、ザ・マークグランドホテル3階サクラホールにおいて、令和5年度埼玉県私学振興大会反省会が行われました。

埼玉県私学振興大会副会長で埼玉私学保連の國分副会長の挨拶では、大野知事を迎え私学振興に向けて行政と中高協会・私学保連が一体となった非常に有意義な大会であったとの総括を受け、無事大会を終えた安堵感を覚えました。

その後、専門委員会（動員・会場専門委員会及び渉外・広報・運営専門委員会）ごとに反省点を述べ、活発な話し合いがされました。今年度の大会について改善点はいくつかあったものの、全体を通して円滑な運営となり、成功裏に終わった大会であったという振り返りを出席者全員で共有しました。

特に各校参加者の会場への集合、受付に関しては、感染症拡大による大会中断の後、今回はコロナ前の水準で大勢の参加者が集まることから混乱も予想されましたが、各校が入念な準備のもと、連絡を密にして協力し合い整然と会場入りされていることが印象的でした。（各校の参加者の皆様、ご協力ありがとうございました。）

その後の懇親会も大会運営に携わった方々の労をねぎらい、和やかな雰囲気の中、来年度も大会を成功させることを全員の目標として終宴となりました。



振興大会当日の様子

令和5年度 埼玉県私学振興大会開催

振興大会実行委員長（埼玉私学保連副会長） 関口 健一

令和5年11月28日、さいたま市文化センター大ホールにて埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者連合会、一般社団法人埼玉県私立中学高等学校協会の主催で令和5年度埼玉県私学振興大会が開催されました。

令和5年度は、新型コロナウイルスも第5類になり人数制限が解除された中で、約1,500名の加盟校の保護者の方々に参加いただき埼玉県私学振興大会会長の青木徹先生（中高協会会長）と大会副会長の國分忠義私学保連会長の主催者挨拶に始まり、本年は振興大会開催に際し初めて埼玉県知事の大野元裕県知事に挨拶を頂き、大会終了までご出席いただきました。また来賓として、立石泰広埼玉県議会議長、小島信昭埼玉県議会議員・自由民主党私学振興懇話会会長を始め多数の埼玉県議会議員の皆様にご臨席賜り盛大に開催されました。

大会決議として、埼玉県のそれぞれの私学の建学の精神に基づき個性豊かで先駆的な教育を積極的に展開するため、教員の確保・資質向上、ICT環境の整備・充実・諸物価の高騰に伴う課題の解決を目指し公立学校と私立学校の公私間格差の是正をし、自由な学校選択機会が保障できるよう引き続き取り組むことなどを採択し、埼玉県県知事、埼玉県議会議長に大会決議文を手交し無事、令和5年度埼玉県私学振興大会を閉会いたしました。



大会決議

埼玉県の私立学校は、それぞれの【建学の精神】に基づき、個性豊かで先駆的な教育を積極的に展開し、本県の学校教育全体の発展にも大きく貢献しています。

現在、私立学校は、教員の確保・資質向上、ICT環境の整備・充実、諸物価の高騰への対応等様々な課題の解決を迫られています。こうした課題を解決するための財源としては、授業料と県からの運営費補助金がありますが、授業料の引き上げは、公立学校との経済的負担の格差拡大や、県の厳しい授業料の抑制方針とも相まって、非常に困難な状況です。補助金についても、埼玉県の私立学校の運営費補助額における生徒一人当たり単価は、国の財源措置額を大きく下回っております。

教員の確保の困難性についてはこれまでにない状況です。今年10月、埼玉県人事委員会から、県職員の月給を0.94%、特別給（ボーナス）を0.1カ月分、それぞれ引き上げるよう勧告が出されました。今年5月には、公立学校の教員の教職調整額を4%から10%以上に引き上げることを含む自民党特命委員会の提言が出されるなど、公立の教員の処遇改善が進む中、私立学校の教員給与の引き上げも喫緊の課題となっています。

また、国のGIGAスクール構想の実施に伴い、児童・生徒の1人1台端末及び通信ネットワーク等の学校ICT環境が整備されつつありますが、必要となる高速・大容量の通信環境の整備、維持には多大な経費がかかります。

一方、埼玉県の私立高校における父母負担軽減策は、他の都道府県の中でも上位に位置していますが、本来、公立・私立の負担額について差をなくし学校選択の自由を十分に保障すべきです。負担軽減策のさらなる拡充が必要です。

つきましては、下記の事項について決議します。

記

- 1 私立学校が時代や社会の進展に対応した新しい教育を実施するためには、優秀な教員の確保をはじめ、学校運営の安定、充実がますます必要となることから、各学校に対する運営補助額の大幅な拡充を図ること。
- 2 ICT環境の整備及び維持について、十分な予算的措置を講ずるなど、補助を拡充強化すること。
- 3 保護者負担の公私間格差を是正し、自由な学校選択の機会が保障できるように、引き続き取り組むこと。

以上、決議する。

令和5年11月28日

埼玉県私学振興大会